

山元町議会議員のなり手不足 対策調査特別委員会 議事録

日時：令和7年10月21日（火）

14時52分～

場所：第1・2委員会室

欠席なし

出席者

委員名 委員長 伊藤 貞悦 副委員長 竹内 和彦 委 員 大和 晴美
 委 員 渡邊 千恵美 委 員 岩佐 秀一 委 員 斎藤 俊夫

会議次第

1 開会宣言【委員長】

2 連絡

※ SideBooksの05_特別委員会 議会議員のなり手不足対策調査特別委員会 フォルダ及びチームスに次第・資料を格納します。確認をお願いいたします。

3 所管事務調査

(1) 山元町議会議員のなり手不足対策に関する調査手法について

① 手法

【委員長】新議会広報・広聴常任委員会から特定の団体PTA・民生委員等共催し、懇談会を行いたいと申し入れがあります。

スケジュールは2年間ではなく、1年間で成案を得て執行部調整を行わないと間に合わない。

【斎藤委員】後発の利を得て、大和町で三段階方式を学んだ。ゼミナール方式と参加者への謝金もある。先行自治体はこれまで様々学んで成果を上げている。それを活用するのがいいと思う。

【委員長】亘理町は来春の定員割れ分の補選から3万円増額という方向だそうです。斎藤委員がいうような方向で考えていいか。

（「異議なし」の声あり）

② スケジュール

【委員長】1年間で成果が出せるようなスケジュールを次回まで事務局と調整し、示したい。

【秀一委員】報酬を上げるでいいか。

【委員長】定数もこれから含めて考える。1、2減や変わらずといったところが多い。

【斎藤委員】住民コンセンサスを得るために大和町方式をとってゼミナールを行うために、10名でも20名でも人選を進めていく、12月議会に補正をすることも考え進めていくべきではないか。広報・広聴特別委員会との連携は慎重であってほしい。2回報告会をするから、抱き合はせではなく。

【委員長】町民の声、議員の声、早めに原案を作つてキャッチボールを行い、事務局と調整のうえ、提案したい。報酬となり手不足にポイントを置いて、定数は町民からの指摘が大きいと思われるので、委員会では報酬となり手不足を考えていくたい。定数の声があつた場合には、それをも含めていくことでどうか。

【渡邊委員】1名現在減なので、このままでいいのか。それとも13名で考えるべきか。

【委員長】委員会で提案し全員協議会に提案ということか。4月に補選があるので13名になる。

【秀一委員】同規模の人口自治体を東北圏内程度に確認して置く必要がある。1名減で1年間やっても問題ないといわれたときにこたえられるように。視察してきたところでは定数減をあわせた議論になっている。町民の目線を考えていかなくてはいけない。

【委員長】理解をもらうためには理論的な裏付けが必要。なり手不足調査特別委員会なので、まずはなり手不足を解消する。報酬面を優先して進めていくたい。

【斎藤委員】今後検討するにあたり、定数いくら報酬いくらというのに2案を持っていくのがいいのではないか。増やすことは考えられないので、減らす場合には何名か。全国議長会での結果でも6、7人での協議体が必要とされるが、視察先には5ということもあった。そういうことを絡めていくとよいのではないか。

【委員長】月に一回の開催を考えていきた。視察とか団体との協議とか全員協議会とか。

【斎藤委員】軌道に乗せるまでには細やかな委員会開催が望まれる。先ほど亘理町の対応を紹介いただいたが、補選対応に3万ありきはどうかという思いもある。そこはわきにおいてフラットに考えることがいいと思う。

【委員長】人事院勧告ではないので、何年に一回ということもある。

【秀一委員】亘理町が3万なのにそれ以上というのも。

【渡邊委員】人口3倍なのにといわれるかもしれない。

【委員長】亘理町での検討内容を調べることなどもしていきた。

【斎藤委員】視察は十分だと思われるの、利府町の例は事務局に調べてもらうなどで十分ではないか。

【委員長】方向としてはそのようなことでいいか。岩沼の小刻みに上げる例もあるので。スケジュールを検討して示したい。

【大和委員】大和町議会の例のようにワークショップの開催などいいところがあつた。そういうことに取り組むか。

【委員長】斎藤委員からの発言にあつたように実施していくといふと思う。講演会や委員報酬も考えて、補正予算とスケジュールを事務局と相談を行いたい。

【斎藤委員】新年度予算と12月補正のタイトなものになる。早めに全体スケジュールを考えて年度内予算を確保する必要がある。

【委員長】事務局と対応する。今月また開催する。補正予算締め切りもあるので。

4 その他

5 閉会宣言【委員長】